

昭和28年の白峰村における郵便図 — 山々を歩いた郵便配達員

林 哲 石川県白山自然保護センター
佐川 貴久 石川県白山自然保護センター

MAIL MAP OF SHIRAMINE VILLAGE IN 1953

Tetsu HAYASHI, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*
Takahisa SAGAWA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

序

昭和28年の「白峰局郵便区全図」（以下S28郵便図と呼ぶ）は昭和20年代後期の旧白峰村における数百所帯の出作り地と子字名が記載され、村内のほとんどの道に1m単位の距離や集落の戸数まで記載してある特殊編集図である（西村，1971，図1）。この地図は郵便配達の便益上作成された地図であることは明白であるが、一方、郵便配達員が当時山々に分布していた出作り地まで郵便物を配達していたことを示している。白峰村の出作り地は、時には標高1,000mを越える高地にもあり、その多くは標高600mから800mの位置にあることは知られている（橋，1994）。このような高地への配達用務は公務ながら特に冬期には困難をきわめたにちがいない。当時の郵便配達員の行動は白山麓の山民生活にかかわり、その特性を究明する上で参考になるものである。このたび、この「S28郵便図」が保存されていることが分かったので、この図を通して当時の郵便配達員の歩いた距離やコースのほか配達の様子を記録することとした。

本図を保存し、その利用を承諾していただいた橋礼吉氏にお礼申し上げます。また、白峰郵便局には貴重な資料を利用させていただきお礼申し上げます。さらに、昭和30年前後の郵便事情について教示していただいた山下裕男氏、木田十幸氏及び永吉恒男氏に感謝します。

方 法

S28郵便図には白峰局管内ほとんどの道（国道や

村道から集落や出作り地までの道）に1m単位の距離が記載してあるため、郵便配達員の歩行コースを推測し、地域ごとに配達基点を置いて距離を測定した。下田原地域は赤谷分岐から、赤谷及び大嵐谷（百合谷・小糸含む）は桑島局から、大道谷、明谷、河内谷（苛原・風嵐谷を含む）は白峰局から、三谷-市ノ瀬はコマ山（向桑島）集配所から算出した。三谷-市ノ瀬地域については当時の配達員におおたのコースを聴取して測定した。ただし、本図の判読不能な箇所は縮尺を参考にして筆者が測定した。また、白峰村史に掲載された郵便の分類地区を示した「白峰局の郵便区」（白峰村，1962）（以下「村史郵便分類図」と呼ぶ）とS28郵便図に記載してある小字名を入れた地図を国土地理院地形図（5万分の1「白峰」「越前勝山」，昭和46年発行版）に転記して新たに地図を作成して参考資料とした（図2）。

結果及び考察

1 S28郵便図と村史郵便分類図

S28郵便図は1962年に発行された白峰村史の著者である小倉学氏を通して橋礼吉氏が入手されたが（橋礼吉私信）、村史郵便分類図にはS28郵便図に記載されている小字の場所がおおむね一致し、S28郵便図と同様に「昭和28年8月15日現在」と記載されていることから、S28郵便図と直接関連した地図と思われる。しかし、両図における配達期間が異なっている地区もあるため配達期間は村史郵便分類図を、配達距離はS28郵便図を基に整理することとした。

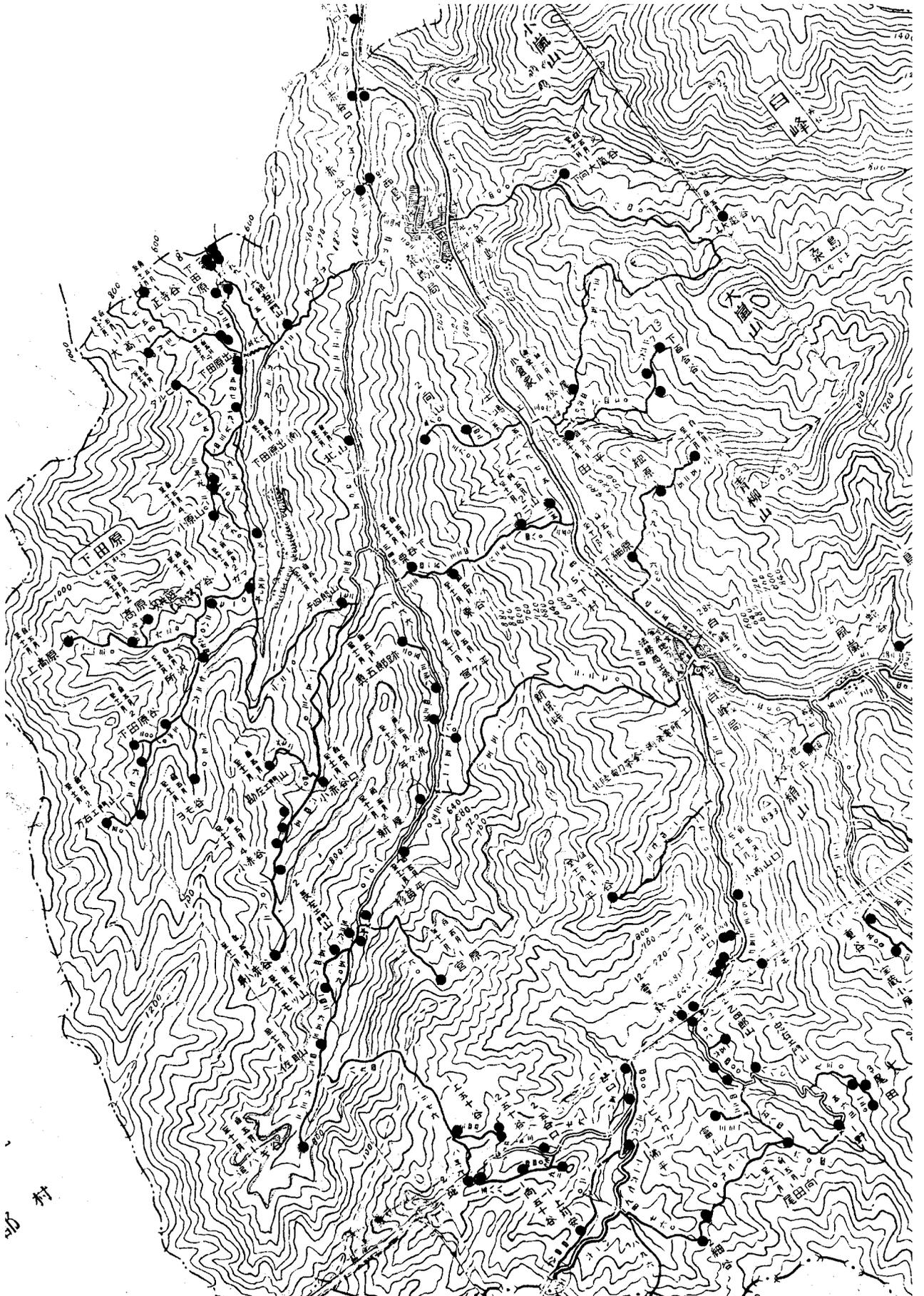
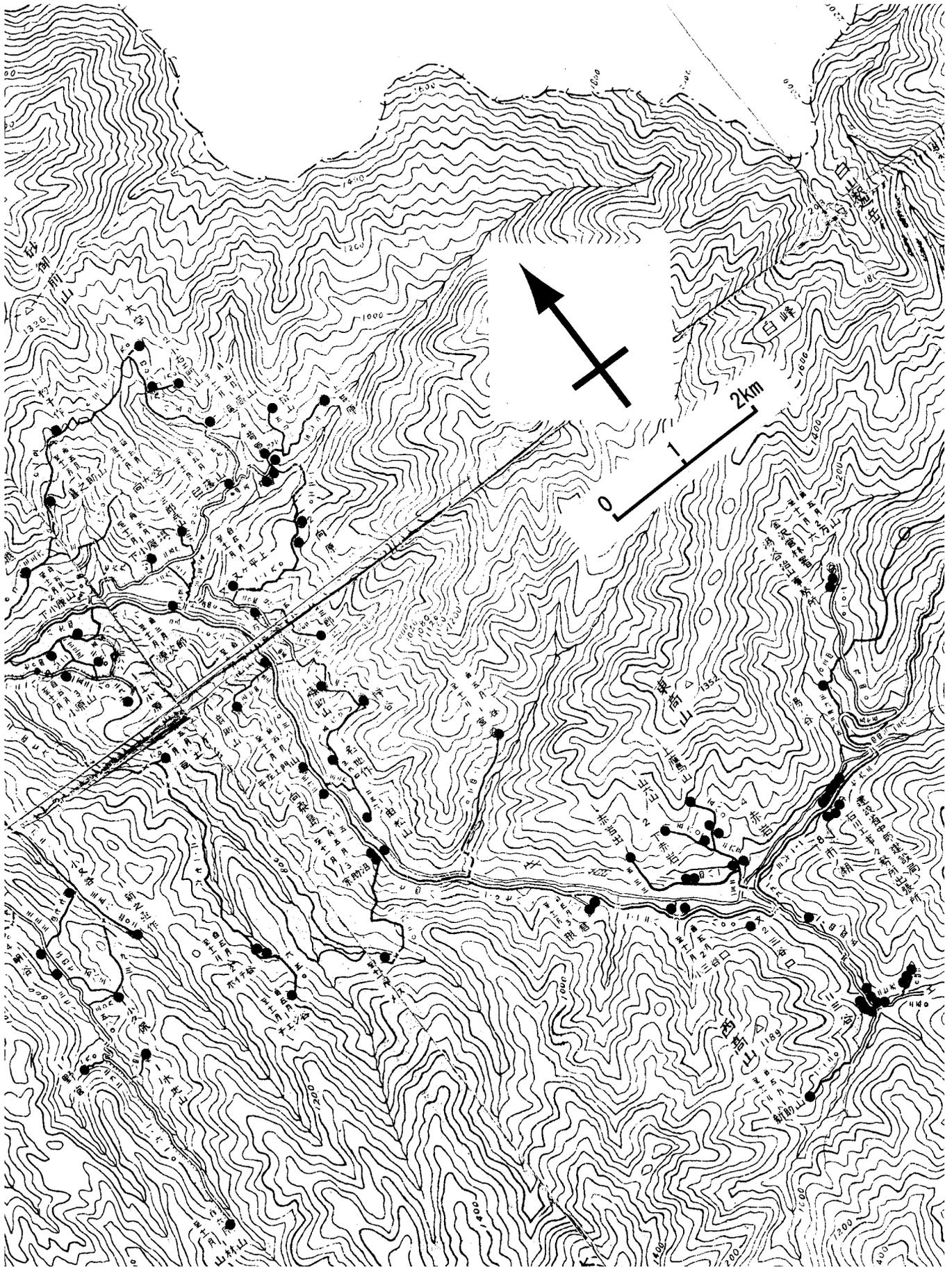


図1 白峰局郵便区全図 (昭和28年発行 一部を加筆。出作り地の●印を大きくした)



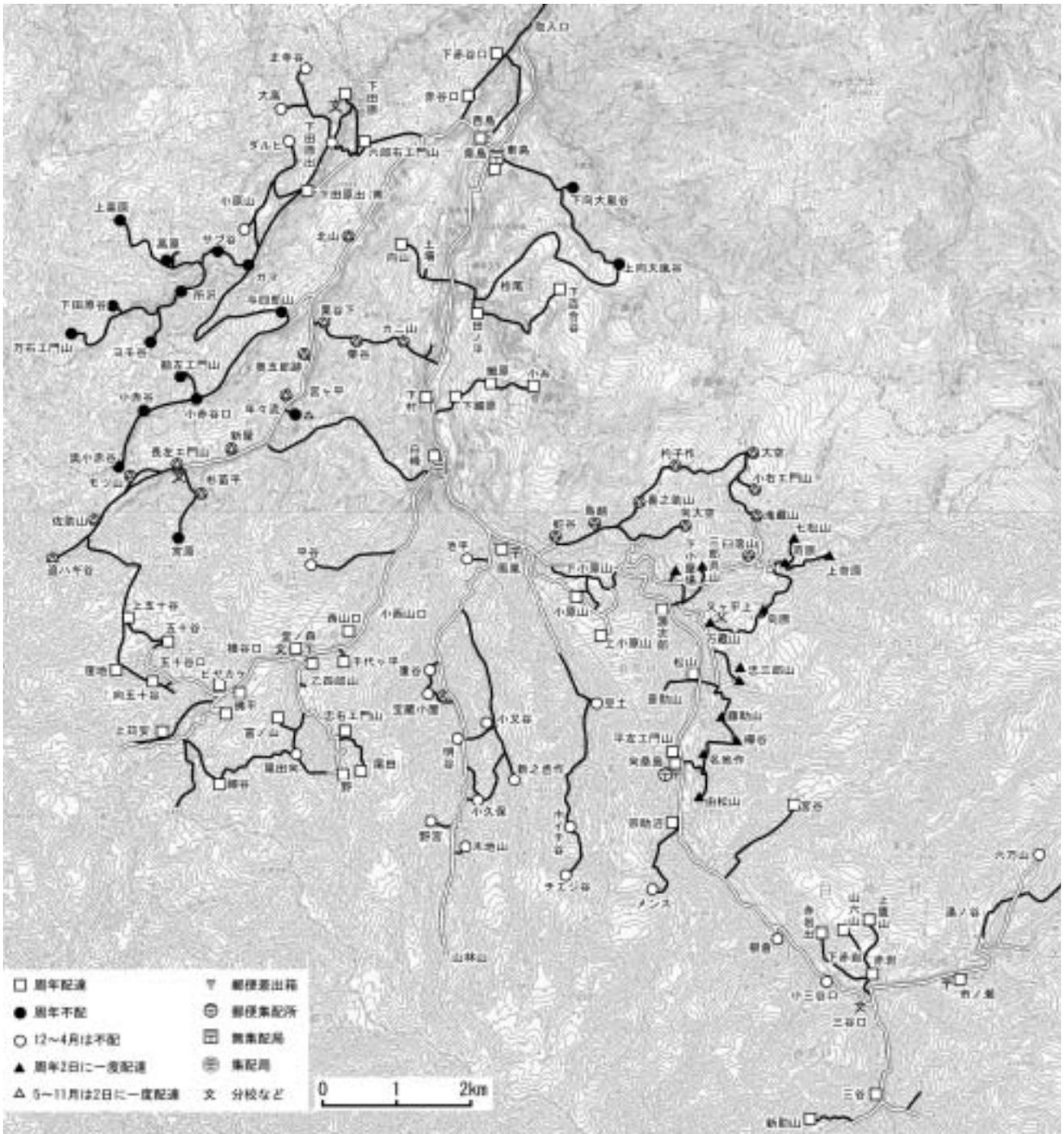


図2 1953(昭和28)年の旧白峰村における郵便区分図

「白峰局郵便区全図」(1953)及び「白峰局の郵便区」(1962)の分類を基に作成。地形図は国土地理院白峰及び越前勝山(昭和47年発行)を使用。

2 「S28郵便図」から見た各地域の配達状況

「S28郵便図」に掲載されているのは白峰288戸、桑島(西島, 東島)217戸計505戸と下田原, 赤谷など旧白峰村内7地域の(130地区)242戸を併せて747戸であった。この地図の欄外には「市内総戸数288戸, 市外総戸数367戸」(合計655戸)と記載されていたが, 市外総戸数は地図に記載されている戸数

と一致しなかった(92戸過少)。これは当時の郵便当局における市外戸数の把握方法が異なっているためと思われるが, 以前に作成された戸数があるままS28郵便図に掲載されている可能性もある。

S28郵便図に記載してある7地域130地区の郵便状況の概要は以下の通りであった(表1, 附表)

表1 旧白峰村における郵便配達員の歩行距離と標高

地域	距離 (km)	小字数 (地区)	戸数	標高 (m) 最低-最高	標高差 (m)	配達期間 (I)		配達期間 (II)						
						通年	5~11月	周年配達 (A)	周年2日 に一度配 達 (B)	12月~4月 周年不配 (85条適用) (C)	12月~4月は周年 不配 (85条適用), 5~11月は2日に 一度配達(D)	周年不配 (85条適用) (E)	不明	計
下田原	10.2	16	33	560-880	320	2	14	3	0	5	0	8	0	16
赤谷	14.4	22	30	440-760	320	3	19	3	0	0	11	6	2	22
大嵐谷	9.5	12	20	440-800	360	5	7	7	0	0	1	2	2	12
大道谷	20.6	21	42	560-880	320	17	4	16	0	2	0	0	3	21
明谷	14.8	10	13	600-1,040	440	9	1	0	0	9	0	0	1	10
河内谷	31.9	33	60	520-1,040	520	20	13	6	12	3	9	0	3	33
三谷-市ノ瀬	18.0	16	44	640-1,000	360	10	6	9	0	4	0	0	3	16
	119.4	130	242			66	64	44	12	23	21	16	14	130

※1 石川県石川郡白峰局郵便区全図 (1953) より作成

※2 配達期間 (I) は白峰局郵便区全図 (1953) より, 配達期間 (II) は白峰局郵便区図 (白峰村 1962) より作成

※3 標高の最高地は5月から11月までの配達地域の標高を示す

(1) 下田原地域

16地区33戸あった。16地区のうち周年配達地区は下田原, 下田原出, 六郎右エ門山など3地区で14戸あったが, 奥地の万右エ門山や上高原, ヨモ谷など8地区12戸は周年の不配地区であった。正寺谷や小原山など下田原に近い5地区11戸では夏期は配達地区になっていたが, 冬期間は不配地区であった。この地域の下田原の標高は560mで, 高標高地の大高(880m)との標高差は320mあった。赤谷分岐点から夏の配達地(5~11月)の小原山までの片道距離は10.2kmあった。

(2) 赤谷地域

22地区30戸あった。22地区のうち周年配達地区は取入口, 赤谷口, 下赤谷口の3地区5戸であったが, 小赤谷の奥小赤谷, 小赤谷, 勘左エ門山, 宮原などの6地区9戸では周年の不配地区であった。また, 北山, 栗谷下, 佐助山など11地区14戸は夏期には2日に一度の「15度地域」であったが(郵便規則では2日に一度配達する地域のことを「15度地域」と称した), 冬は不配地区であった(2地区は不明)。30戸のうち, 取入口の標高は440mあり, 夏の配達地の追ハギ谷(760m)との標高差は320mあった。桑島の西島から追ハギ谷までの片道距離は14.4kmあった。

(3) 大嵐谷(百合谷・小糸)地域

12地区20戸あった。12地区のうち周年配達地区は田ノ平, 下百合谷, 向山, 下村, 細原, 下細原, 小糸の7地区14戸であったが, 下向大嵐谷, 上向大嵐谷の2地区2戸は周年の不配地区であった。一方, ガニ山は夏期には2日に一度の配達地区で冬は不配地区であった(2地区は不明)。12地区のうち低標高地は下村で440m, 高標高地は下百合谷(800m)

で標高差は360mあった。桑島東島から下百合谷, 田ノ平, 土場などに出て東島へ戻るコースと白峰局から小糸までの距離は合わせて9.5kmあった。

(4) 大道谷地域

21地区42戸あった。このうち16地区は周年配達地区であったが, 平谷と尾田向2地区2戸は冬のみ不配地区であった(3地区は不明)。21地区のうち低標高地は小西山で560m, 高標高地は尾田で880mあり, 標高差は320mあった。距離は白峰局から尾田を経て上五十谷までのコースで片道20.6kmあった。

(5) 明谷地域

10地区13戸あった。このうち9地区12戸は冬期は(12月から翌年4月まで)不配地区であった。この地域の最奥にある山林山はS28年郵便図では6月から11月の配達期間と記載しているが, 村史郵便分類図では配達期間は記載しておらず不明であった。10地区のうち低標高地は池平で600m, 高標高地は山林山で1,040mあり, 標高差は440mあった。白峰局から山林山まで片道14.8kmあった。

(6) 河内谷(苛原・風嵐谷)地域

33地区60戸あった。風嵐21戸, 苛原4戸, 小原山3戸, 下小原山, 向原各2戸の5地区のほか28地区は各1戸であった。33地区のうち, 周年配達地区は風嵐, 小原山, 上小原山, 源次郎, 松山, 平左エ門山の6地区28戸で牛首川沿いの地区に多かった。大空, 小右エ門山など大空地域の9地区9戸は5月から11月までは「15度地域」で, 冬期は不配地区であった。一方, 苛原や上苛原, 七松山の苛原周辺地区の3地区6戸や河内谷地域の三郎兵山, 下小屋場, 万蔵山や藤助山, 櫻谷など9地区10戸では周年の「15度地域」であった。また, 風嵐谷3地区は冬期には不配地区であった(3地区は不明)。風嵐で標

高が520mあり、高標高地は大空、小右エ門山で1,040mあり、標高差は520mあった。白峰局から大空、苛原を経て、由松山まで片道距離は31.9kmあった。

(7) 三谷一市ノ瀬地域

16地区44戸あった。このうち周年配達地区は集配所になっていた向桑島（コマ山）から上流域の宗助沼、宮谷、赤岩、赤岩出、山六山、上鷹山、三谷、市ノ瀬など9地区32戸あった。宮谷、新助山は「S28郵便図」では5月から11月までの配達期間になっているが、村史郵便分類図では周年配達地区になっている（表1、図1、附表参照）。メンス、根倉、小三谷口、六万山の4地区8戸は冬期には不配地区となっていた（3地区は不明）。16地区の配達基点である向桑島（コマ山）で標高640m、高標高地は新助山、六万山で1,000mあったので標高差は360mあった。距離はコマ山（集配所）から六万山まで片道18.0kmあった。

3 小字数

小字数の合計は130地区あったが、小字数の多かった地域は苛原・大空・河内谷地区が33地区、ついで赤谷22地区、大道谷21地区、下田原、三谷・市ノ瀬は各16地区で他の2地区は10～12地区であった。

下田原地域の奥地や小赤谷地域など不配地区を除いて小字数が多い地域は、それだけ郵便物を届ける距離が長かった傾向を示すものであり、郵便配達員が苦労して歩いた地域と推測される。

4 配達距離

それぞれの地域に基点をおいて配達員が歩いたと思われる距離を測定すると、河内谷（苛原・風嵐谷含めて）31.9km、大道谷20.6km、三谷・市ノ瀬、18.0km、赤谷14.8km、下田原10.2km、明谷14.4km、大嵐谷9.5kmで総距離は119.4kmであった（表1）。郵便物は周年配達地区でも日によって量が異なり、各戸に毎日配達する必要はなかったと思われるが、新聞を届ける地域は必ず毎日通わなければならなかった（木田十幸氏聴取）。三谷一市ノ瀬以外の地域は白峰本局の6人が輪番で配達していたとされているが（白峰村、1962）、「15度地域」であったとしても、白峰本局に近い明谷でさえ片道14.8km、河内谷では風嵐谷などを加えると31.9kmもあり、たいへん苦労の多い山道だったと推察される。

5 標高差

7地域それぞれについて、配達地としてもっとも標高の高い所は大嵐谷、大道谷地域が約800m、下田原、赤谷地域が約900m、明谷、河内谷、三谷一市ノ瀬地域（六万山）が約1,000mであった。配達の起点は赤谷地域、大嵐谷地域では標高約400m、下田原地域、大道谷地域、河内谷地域が約500m、明谷、三谷一市ノ瀬地域が約600mあったので、各地の標高差は河内谷地域は約500m、赤谷地域、明谷地域では約400mあり、その他の4地域は約300mあった。標高差のある山道を歩いた配達員の行為は毎日が登山のようなものであったと思われる。特に河内谷地域では標高差は約500mもあり、配達員たちの苦労が容易に想像できる。標高差400～500mの道を頻繁に歩いた郵便配達員が日常的に存在していたことは旧白峰村民の生活誌の一端を示すものであり、広範な地域に分布していた当時の出作り生活の活力を示唆している。

6 周年配達地区と不配地区

S28郵便図に掲載されている小字名と戸数は当時の白峰郵便局が掌握していた管内の出作り戸数の総数と思われる。一方、村史郵便分類図では村内における配達の区分図が示されており、それによれば、5種類の配達区域に分けられている（図2～3）。一つは一般的な周年配達地区、二つは季節的または短期間の地区に分けられ、「指定地域」と記載している。これはさらに4種類に分けられ、一つは周年にわたる不配地区と12月から4月までの冬期間の不配地区に分けられている。さらに、周年にわたる「15度地域」と5月から11月に「15度地域」になる地域に分けられている。ただし、周年の不配地区に指定されている地区の住民はある一定の場所を指示して配達してもらうことができることになっていた。これらはいずれも郵便規則第85条に規定されていた（白峰村、1962）。現在の白峰ではこの規則による配達区はなくなっているが、県内では小松市の2地区（丸山町、新保町）が冬期のみ指定されている（「内国郵便約款」第80条で規定。郵便事業株式会社、2007）。

S28年郵便図に記録されている130地区（小字）のうち通年配達地区は66地区記載されているが、村史郵便分類図では44地区となっている。村史郵便分類図によれば通年配達地区の多い地区は小糸・百合谷、大道谷および三谷一市ノ瀬地域である。また、

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
周年配達	←————→											
周年不配	←————→											
5-11月は配達, 12-4月は不配	←————→				←————→				←————→			
周年2日に1度配達	←-----→											
5-11月は2日に1度配達, 12-4月は不配	←-----→				←-----→				←-----→			

図3 郵便配達区の種類
白峰局郵便区図（1962）より作成



写真1 昭和30年ころの配達の様子（木田十幸氏提供）



写真2 昭和30年ころの郵便配達員の服装（木田十幸氏提供）

周年の「15度地域」は河内谷と苛原に分布し、5月から11月までの「15度地域」は赤谷と大空地区に多く分布している。この2地域はまた、12月から4月までの冬期間は不配地区になっている。一方、周年にわたる不配地区は下田原地域の奥地と小赤谷地域となっている。

昭和20年代から昭和30年代の白峰郵便局の配達従事者は6～8人程度いたとされているが、三谷や市ノ瀬など白峰村の奥地は「請負集配区」と呼ばれ、請負集配人が配達していた。その他の地域は白峰郵便局の本局が直接配達しており（永吉恒夫氏、木田十幸氏より聴取）、白峰村史では村史編纂当時の配達員は6名が輪番制で勤務していると記載している（白峰村、1962）。

7 郵便配達の状況

昭和2年生まれの木田十幸氏は満16歳のときから75歳まで郵便配達員をしていた。16歳から25歳ぐらいまでの間は「本務員」であった兄の補助員として歩き、26才ごろから45才までは独りで配達して歩いた。さらに、46才から60才の定年になるまでは「本務員」として働いた。また、61才から75才までは再度「請負」の配達員として山々を歩いた。

木田氏は自分の実家のあった「コマ山」（「S28郵便図」では「向桑島」と記載）で本局から運搬された郵便物を受け取り、ここから主に徒歩で三谷、赤岩、市ノ瀬、六万山の営林署の小屋まで行き来した。周年配達地区の多いこの地区では冬季にはスキーにアザラシのシールをつけて配達したが、大変な苦勞があったにちがいない。

この地域では三谷の林家、赤岩の加藤家、市ノ瀬の永井家や湯ノ谷の営林署では新聞を取っていたので毎日約30km歩いた。これらの3家には「証印」が置いてあり、配達した際には押印することとしていた。配達の際には幅約40cm、高さ約20cm、重さ約1kgの牛皮のカバンに郵便物を入れ、足に脚はんを巻いて地下足袋をはき、制服を着て配達した(写真1, 2)。昭和30年代には「コマ山」の集配所には本局が配置した自転車が置いてあり、それを使っていたが、当時は道が悪く、押して行くことが多かった。昭和40年代になると私物のバイクを利用することもあった。昭和30年代には本局の職員(本務員と思われるが)は20人ぐらいいて、その他に7~8人の配達員がいた。木田氏の受け持った「請負区」は三谷から市ノ瀬、湯ノ谷までであった。

まとめ—郵便図と山村・里山

昭和20年代後半期の旧白峰村の山間地の居住者の様子が昭和28年の郵便図から推測できるが、昭和30年代以降に起きた社会環境は山村を激変させ、130地区の「山の家やムラ」をおおかた消失させてしまった。網の目のようにつながっていた山道も今ではほとんどは喪失状態になっている(林, 2008)。20年後に編纂された旧白峰村の郵便図では山間地の地区や戸数が激減している。昭和48年に編纂された郵便図では旧白峰村の市街地以外の地区数と戸数は45地区、108戸になっており、昭和28年当時と比べると地区数は65.4%、戸数は55.4%減少している

(郵政省, 1973)。山の家が1戸抜け、2戸抜けて居住者がいなくなっていく過程は過疎化の常態である(宮本, 1964; 1972)。昭和35年ごろからはじまる日本の経済成長政策は、日本各地の農林業人口を都市部に集中させた結果、日本各地のムラを崩壊させてきた(今井編, 1968; 森井, 1995)。このような農山村の過疎化現象は結局、各地の耕土を荒廃させ、山地帯や里山の生態系を脆弱化させてきたと考えられる。旧白峰村の「郵便図」は約50年前の山の生活を想起させるものであり、山村の劇的な変化を示唆する貴重な資料である。

文 献

- 林哲(2008) 谷峠と言わない地蔵. はくさん, 第36巻第1号 1頁 石川県白山自然保護センター.
 林哲(2008) 下田原峠と地蔵. はくさん, 第36巻第2号 1頁 石川県白山自然保護センター.
 今井幸彦編(1968) 日本の過疎地帯. 岩波新書, . 200pp.
 宮本常一(1964) 山に生きる人びと. 未来社, 234pp.
 宮本常一(1972) 宮本常一著作集12 村の崩壊. 未来社, 333pp.
 森井淳吉(1995) 「高度成長」と農山村過疎. 文理閣, 279pp.
 西村溪二(1971) 地図の利用法. 朝倉書店, 212pp.
 白峰村(1962) 白峰村史上巻. 859pp.
 橘礼吉(1994) 白山麓の焼畑農耕. 白水社, 666pp.
 郵政省(1953) 石川県石川郡白峰局郵便区全図.
 郵政省(1973) 石川県石川郡白峰局郵便区全図(昭和48年調整).
 郵便事業株式会社(2007) 内国郵便約款

附表 旧白峰村における各地域の郵便配達距離等

整理番号	距離	往復	合計	小字名	戸数	標高	配達期間(I)	配達期間(II)	備考
1	1,800	1,800	1,800	小字名	1	440			系島東島から
2	120	120	120	下向大風谷	1	720	●	E	
3	1,840	1,840	1,840	上向大風谷	1	800	●	E	
4	3,156	3,156	3,156	松尾	1	560	●	不明	
5	440	440	440						百合谷分岐
小計	7,356	120	7,476						
6	1,470	1,470	2,940	下百合谷	3	800	○	A	
7	266	266	532						
8	54	54	54						
9	190	190	380	田ノ平	1	480	●	A	
10	306	306	306						
11	58	58	116						
12	159	159	318	土場	1	480	○	不明	
13	142	142	284						
14	360	360	720						
15	460	460	920	向山	2	760	○	A	系島東島へ 白峰局から
16	1,783	1,783	1,783						
17	157	157	314						
18	475	475	950	下細原	1	480	●	A	
19	600	600	1,200						
20	698	698	1,396	細原	1	680	○	A	
21	525	525	1,050	小赤	1	760	○	A	
22	848	848	1,696	下村	5	440	○	A	下細原とカニ山分岐の間
23	250	250	500						
24	215	215	430						
25	480	480	960	カニ山	2	640	●	D	
小計	9,486	7,353	16,849	小字数 12	20				

整理番号	距離	往復	合計	小字名	戸数	標高	配達期間(I)	配達期間(II)	備考
1	1,247	1,247	2,494	小字名	1	440			白峰局から 大道谷
2	1,473	1,473	2,946	平谷	2	680	●	C	
3	780	1,560	1,560	小西山口	2	560	○	A	
4	503	503	1,006	西山口	2	560	○	A	
5-a	254	254	508						
5-b	340	340	680	千代ヶ平	1	640	○	A	百合谷分岐
6	581	581	1,162	登ノ森	12	600	○	A	
7	173	173	346	積谷口	1	600	○	不明	
8	400	400	800	ヒヤカケ	1	680	○	A	
9	386	386	772	佛平	1	800	○	A	
10	1,167	1,167	2,334						
11	94	94	188						
12	760	760	1,520	細谷	2	840	○	A	細谷分岐
13	820	820	1,640	上相安	1	760	○	A	
14	761	761	1,522	五十谷口	2	640	○	不明	
15	440	440	880	向五十谷	1	760	○	A	
16	588	588	1,176	豊地	2	800	○	A	
17	836	836	1,672	上五十谷	1	840	○	A	
18	344	344	688	五十谷	2	800	○	A	
19	472	472	944						
20	543	543	1,086						
21	808	808	1,616						
22	156	156	312	乙四郎山	2	720	○	A	
23	400	400	800	忠右エ門山	2	760	○	A	
24	880	880	880						
25	930	930	1,860	尾田	3	880	○	A	
26	120	120	240						
27	563	563	563	野	1	600	○	A	
28	604	604	604	尾田向	1	800	●	C	尾田から細谷へ(峠あり)
29	1,790	1,790	3,580						
30	584	584	584						
31	422	422	844	富ノ山	1	800	○	A	
32	331	331	662						
小計	20,550	14,274	34,824	小字数 21	42				

整理番号	距離	往復	合計	小字名	戸数	標高	配達期間(I)	配達期間(II)	備考
1	995	995	995	六郎右エ門山	1	600	○	A	赤谷分岐から
2	751	751	751	下田原	8	560	○	A	
3	723	723	723						
4	800	800	1,600						
5	754	754	1,508	正寺谷	1	720	●	C	
6	390	390	780	大高	1	880	●	C	
7	547	547	547						
8	439	439	439						
9	935	935	1,870	ダルヒ	1	760	●	C	
10	339	339	339						
11	280	280	560	小原山	4	760	●	C	川分岐
12	390	390	390						
小計	7,343	4,154	11,497						
13	511	511	1,022						
14	710	710	710	ガマ	2	740	●	E	
15	280	280	560	サブ谷	1	800	●	E	
16	620	620	1,240						
17	530	530	1,060	高原	2	800	●	E	
18	1,130	1,130	2,260	上高原	1	840	●	E	
19	274	274	548						
20	726	726	1,452	所沢	1	680	●	E	
21	320	320	640						
22	200	200	400	下田原谷	2	800	●	E	
23	672	672	1,344						
23'	130	130	260	万右エ門山	2	920	●	E	
24	630	630	1,260	ヨモ谷	1	800	●	E	
小計	6,733	6,023	12,756						
25	935	935	935						
26	955	955	955	下田原出	4	600	●	C	
27	939	939	939	下田原出(南)	1	600	●	A	
小計	2,829	0	2,829	小字数 16	33				

整理番号	距離	往復	合計	小字名	戸数	標高	配達期間(I)	配達期間(II)	備考
1	345	345	690	小字名	1	480	●	D	系島東島から 下田原峠分岐
2	497	497	994						
3	2,222	2,222	4,444	北山	1	480	●	D	
4	1,005	1,005	2,010						
小計	4,069	4,069	8,138						
5	543	543	1,086						
6	172	172	344	与四郎山	1	600	●	E	
7	530	530	1,060	小赤谷口	1	680	●	E	
8	672	672	1,344	勸左衛門山	1	760	●	E	
9	645	645	1,290	小赤谷	4	760	●	E	小赤谷口～小赤谷
10	1,062	1,062	2,124	奥小赤谷	1	840	●	E	
小計	3,624	2,780	6,404						
11	343	343	686						
12	666	666	1,332						
13	205	205	410	奥五郎除	1	600	●	D	
14	338	338	676	宮ヶ平	2	600	●	不明	
15	433	433	866	年々流	2	600	●	不明	
16	511	511	1,022	新屋	2	640	●	D	
17	330	330	660	杉苗平	1	640	●	不明	
18	1,010	1,010	2,020	分校	2	640	●	D	
19	326	326	652	段左エ門山	2	720	●	D	
20	548	548	548	モツ山	1	720	●	D	
21	142	142	142						
22	653	653	1,306	佐助山	1	720	●	D	分岐
23	434	434	868						
24	632	632	1,264	道ハギ谷	1	760	●	D	五十谷分岐
25	506	506	506						
小計	7,077	5,676	12,753						
26	1,260	1,260	2,520	宮原	1	920	●	E	
27	522	522	1,044	赤谷口	2	440	○	A	西島分岐より
28	951	951	1,902	下赤谷	2	440	○	A	
29	740	740	1,480	取入口	1	440	○	A	
30	309	309	618						
31	338	338	676	栗谷	1	760	●	D	
32	415	415	830	栗谷下	1	600	●	D	
小計	3,275	3,275	6,550						
小計	14,421	13,020	27,441	小字数 22	30				

附表 旧白峰村における各地域の郵便配達の距離等 (つづき)

(5) 明谷										(7) 洞内谷 (船越谷)									
整理番号	距離	往復	合計	小字名	戸数	標高	配達期間(I)	配達期間(II)	備考	整理番号	距離	往復	合計	小字名	戸数	標高	配達期間(I)	配達期間(II)	備考
1	1,400	1,400	2,800			520			白峰局から	1	1,400	1,400	1,400	風嵐	21	520	○		白峰局から
2	587	587	1,174		1	600	○	C		2	531	120	120				○	A	
3	364	801	1,602	池平	1	600	○	C		3	120	142	142	蛇合	1	560	○	D	
4	801	1,299	2,299		4					4	284	200	200						D
5	280	500	780	重谷	1	600	○	C		5	706	336	336	鳥越	1	680	○	D	向大空分岐
6	280	500	780	重谷	1	600	○	C		6	706	336	336	鳥越	1	680	○	D	
7	500	440	940	宝蔵小屋	1	720	○	C		7	336	830	830	喜之助山	1	800	●	D	
8	440	333	773	明谷	4	600	○	C	明谷分岐	8	830	510	510	粉子作	1	920	○	D	大空分岐
9	333	447	780							9	510	1,230	1,230	大空	1	1040	○	D	
10	447	378	825							10	1,230	90	90	小右エ門山	1	1040	○	D	小右エ門山分岐
11	378	580	958	野宮	1	800	○	C		11	90	190	190	滝蔵山	1	960	●	D	
12	580	1,160	1,900							12	408	854	854	菅原	4	800	○	B	菅原分岐
13	190	282	472	木地山	1	840	○	C		13	190	543	543	七松山	1	920	○	B	七松山分岐
14	282	1,610	1,892	山林山	1	1040	●	不明		14	854	763	763	上菅原	1	840	○	B	
15	248	309	557	小久保	1	840	○	C		15	857	1,230	1,230	向原	2	800	○	B	
16	1,610	309	1,919							16	564	204	204	万蔵山	1	680	○	B	分校
17	309	583	892	新之丞作	1	800	○	C		17	296	580	580	忠三郎山	1	720	○	B	
18	583	893	1,476	小又谷	1	800	○	C		18	543	24	24	260	260	45			
19	893	358	1,251							19	763	590	590	藤助山	1	720	○	B	
20	402	774	1,176							20	1,230	488	488	藤谷	1	760	○	B	
21	358	862	1,220							21	1,190	560	560	名地作	1	680	○	B	「ヘイチ」という (木田十幸氏)
22	774	862	1,636							22	204	236	236	由松山	1	620	○	B	
23	862	333	1,195							23	580	130	130	又ヶ平上	1	620	○	B	
24	333	561	894							24	260	440	440		1		●	不明	分校～橋分岐
25	561	14,824	15,385	小字数 10	13					25	45	590	590	藤助山	1	720	○	B	
(6) 三ツ谷・赤岩・市ノ瀬										(7) 洞内谷 (船越谷)									
整理番号	距離	往復	合計	小字名	戸数	標高	配達期間(I)	配達期間(II)	備考	整理番号	距離	往復	合計	小字名	戸数	標高	配達期間(I)	配達期間(II)	備考
0	0	0	0	向桑島 (コマヤ)	1	640	○	A	木田十幸氏生家 (康五郎配所)	31	130	440	440		1				
1	851	1,620	2,471	宗助沼	3	640	●	A		32	440	153	153		1				
2	1,620	748	2,368	メンス	1	960	○	C	戸数不明瞭 宮谷分岐	33	153	383	383		1	800	○	B	
3	748	1,078	1,826							34	383	226	226	三郎兵山	1	800	○	B	
4	1,078	181	1,259	根倉谷	3	760	●	C		35	226	800	800	白落山	1	760	○	D	
5	181	800	981	小三谷口	2	760	●	C		36	800	256	256		1				
6	1,128	800	1,928	三谷口	2	800	○	不明		37	256	126	126		1				
7	800	1,445	2,245							38	126	110	110	下小屋場	1	680	○	B	下小屋場分岐
8	1,445	580	2,025							39	110	769	769	向大空	1	860	○	D	
9	275	480	755							40	769	1,081	1,081	下小原山	1	680	○	不明	
10	240	240	480							41	1,081	874	874		2	680	○		
11	250	250	500							42	874	401	401						
12	1,120	2,240	3,360	新助山	1	1000	●	A		43	401	704	704	1,408					
13	231	462	693	赤岩	4	760	○	A	赤岩口	44	704	116	116	232					
14	481	962	1,443							45	116	333	333	666					
15	533	1,066	1,600	赤岩出	1	840	○	A		46	333	388	388	776	源次郎	1	800	●	A
16	262	524	786							47	388	504	504	小原山	3	720	○	A	
17	560	580	1,140	下赤岩	1	880	○	不明		48	252	252	252	上小原山	1	800	○	A	
18	580	1,160	1,740	山六山・上藤山	2	1000	○	A		49	292	1,476	1,476	豆土	1	800	○	C	風嵐口～豆土
19	199	199	398							50	1,476	2,176	2,176	ホイチ谷	1	840	○	C	
20	1,163	763	1,926	市ノ瀬	8	800	○	A		51	2,176	650	650	チエジ谷	1	960	○	C	
21	763	285	1,048							52	650	918	918		1				
22	285	394	679	湯ノ谷	1	880	○	不明		53	54	1,082	1,082	松山	1	640	○	A	菅原分岐～
23	394	860	1,254							54	1,082	374	374	菅助山	1	800	○	不明	
24	430	2,020	2,450	六方山(菅林署)	2	1000	○	C		55	374	1,038	1,038	平右エ門山	1	640	○	A	
25	1,010	1,420	2,430	百谷	1	840	○	A		56	1,038	382	382	向桑島	1	640	○	A	「コマヤ」という (木田十幸氏)
26	1,420	3,012	4,432	小字数 16	44					57	382	31,863	32,245		60				
										31,863 11,687 43,550 小字数 33									